

## 中世 安東氏の拠点

### 湊合戦—寺内の砦—

外郭西門のさらに西側の調査では、焼山地区を囲む土塁とそれに組み合う門跡が見つかりました。門跡の柱穴からは\*模鑄銭が出土し、銭の生産・流通時期から、この土塁と門は16世紀後半のものと考えられます。

中世に土崎一帯を治めていた湊安東氏と、檜山(能代)を治めていた同族の檜山安東氏の間、両家の統合をめぐる争いが起こりました(湊合戦・1589年)。湊合戦について記された『奥羽永慶軍記』という書物の中に、戦いの終盤で檜山安東に攻め込まれた湊安東が「寺内の砦」に陣を構え立てこもったという内容が記されています。

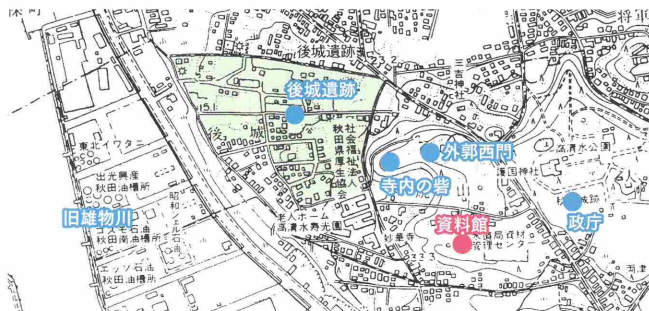
秋田城の西から見つかった遺構が、この「寺内の砦」である可能性は非常に高いと思われます。

※模鑄銭:大陸から輸入した銭を国内で模造したもの



■焼山で見つかった八脚門跡  
門の柱は12本ですが、内側の4本は外から見えないことから八脚門と呼ばれます。

古代も元慶の乱(878)という蝦夷との戦いの舞台として、戦場となった秋田城だけど、中世にも戦いの激戦地だったんだね。焼山からは秋田平野や海が一望できるから、見張りにはぴったりだ!



■後城遺跡と焼山地区西部の概略図  
秋田市2001『秋田市史第7巻古代史料編』

### 重なる古代と中世—後城遺跡—



■発掘時の後城遺跡

焼山地区西の城外、秋田城と雄物川の河岸との間にある、標高約20mのなだらかな砂丘地に後城遺跡は立地しています。遺跡は海からの飛砂に覆われ、古代の集落と、中世の港町が重なっていました。

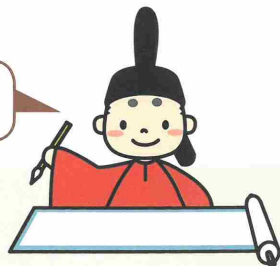
古代の遺構には、材木堀に囲まれた竪穴建物群がありました。出土した土器から、秋田城との密接な関係があり、秋田城の造営や維持に関わる集落と推測されます。また、河岸から後城遺跡を通り、外郭西門に至る道路があり、物資の搬入に関わっていたとも考えられます。

中世の遺構からは、建物や井戸が多数見つかり、また、国内で生産していた陶器の他に、青磁や白磁、染付といった輸入品の貿易陶磁器が大量に出土しています。遺物の時期などから15世紀から16世紀半ばを中心とした時期に栄えていたと考えられます。中世の秋田湊の町並みの一部だったようです。



■後城遺跡から出土した貿易陶磁器

海を望む重要地区、焼山についてわかってもらえたかな?



### 秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市立秋田城跡歴史資料館

【開館時間】午前9時～午後4時30分

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)

【観覧料】一般…200円、団体(20名以上)…160円

高校生以下無料、年間観覧券…300円

〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号

[TEL] 018-845-1837

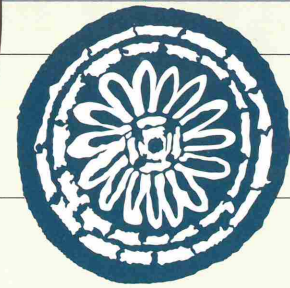
[FAX] 018-845-1318

[E-Mail] ro-edac@city.akita.lg.jp

[URL] <https://www.city.akita.lg.jp/kanko/kanrenshisetsu/1003616/index.html>



# あきまろ 秋麻呂くん 通信



『秋田城』と、みんなの絆をつなぎたいから。

## 海を望む物流拠点—焼山地区—

平成30年7月31日 秋田城跡歴史資料館



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。

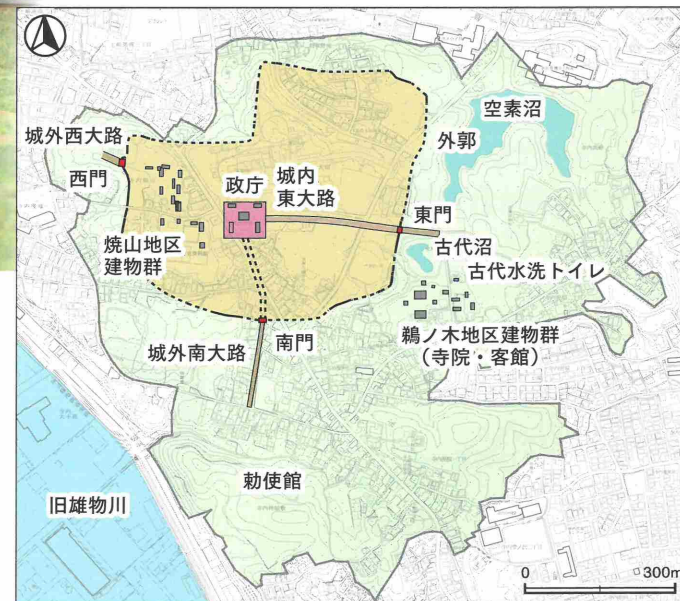
今回は秋田城跡の西側、重要な役割を果たした焼山地区を紹介します。現在は秋田城跡歴史資料館が建っているこの付近一帯は、とても眺めが良く、海を見渡すこともできます。この地形はどのような役割を果たし、利用されてきたのでしょうか。

## 焼山地区—秋田城を象徴し、海を望む重要地区—



■秋田城復元ジオラマ(東から見た風景)

史跡秋田城跡の西部、資料館が建っている周辺を焼山地区と言います。政庁の西側に位置し、国道7号線(臨海バイパス)と市道(通称旧国道)に挟まれたエリアの北側にあります。秋田城跡の中でも標高が高く50m程あり、西に海が見渡せる環境です。



■秋田城跡全体図

古代城柵秋田城を囲む城壁(外郭)には東西南北4ヶ所の門が設けられたとされ、焼山地区からはそのひとつである外郭西門跡と道路の跡、そして倉庫群が見つかりました。海を望む外郭西門は西側の河岸からの物資の搬入口だったようです。

近年の発掘調査で中世の遺構が見つかり、安東氏が焼山地区を利用していたことがわかりました。安東氏が起こした内紛「湊合戦」において、湊安東氏が立てこもり砦を築いたようです。

焼山を利用してきつた時代の、この土地からの眺望を重要視していたようです。現在も秋田市北部地域から港、日本海と男鹿半島まで見渡すことができます。



## 弥生時代 海を見渡す集落

焼山地区から弥生時代前期頃の土器や石器が出土し、お墓も見つかっていることから、付近に弥生時代の集落があったと考えられます。

米作りや弥生文化は日本海沿いに伝わったと考えられ、海を望む丘を弥生人も選んだのかもかもしれません。



■ 弥生土器 鉢



■ 弥生時代の墓(土坑墓)

## 古代 秋田城の時代



■ 西門の柱跡の変遷  
場所をずらしながら、ほぼ同位置に6回の建て替えが行われました。(色は建て替えを示す)

### 海を望む巨大な門(外郭西門)

焼山西部から見つかった外郭西門は、秋田城では最も平面規模の大きな門でした。また、重層門(2階建ての門)であったと考えられています。

外郭西門付近からは秋田平野の北側一帯から日本海を見渡すことができます。

外郭西門を通る道路(大路)も見つかっています。旧雄物川の河岸から荷揚げした物資をその先にある倉庫群に納めていた搬入路と考えられています。



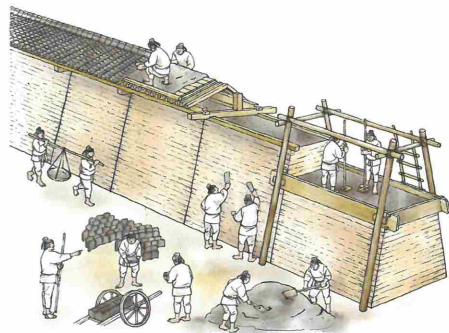
■ 倉庫群から見た外郭西門(ジオラマ)



■ 復元された外郭東門と築地塀

### 地下に眠る築地塀

秋田城はその周囲を囲むように約2.2kmの城壁(外郭)がめぐっていたことがわかっています。高清水の丘に造られた当初の秋田城は瓦葺きの築地塀で囲まれた壮麗な姿をしていました。築地塀は粘土と砂を交互につき固め積み上げていく技法(版築)により造られています。焼山地区では古代の築地塀が特に良く残っており、非常に貴重です。



■ 建築途中の築地塀



■ 発掘された築地塀(焼山西部)

高さは約4.5m  
あったと考えられるよ。



見晴らしの良い丘の上に建つ2階建ての門と瓦葺きの築地塀は船で秋田城を訪れる人々にとってランドマーク(目印)となっていたと考えられ、その姿は見る人に驚きを与えたのではないのでしょうか。

## 交易で得た品々を納めた倉庫群

現在は道路により分断されている政庁と焼山地区ですが、かつてはひと続きでした。政庁西門を出た西側には大規模な倉庫が立ち並んでいました。

倉庫群はこれまでの調査で奈良時代のもものが10棟、平安時代のもものは5棟見つかっています。特に平安時代は高床式建物が南北に連続する「並(双)倉」と考えられる構造となっています。

他の城柵では長期にわたり維持される大規模な倉庫群は確認されず、秋田城の特徴のひとつと言えます。



■ 奈良時代に作られた倉 正倉院正倉(東大寺)  
所蔵: 宮内庁正倉院事務所



■ 焼山倉庫群の発掘調査の様子(国営調査時)



■ 焼山倉庫群の遺構配置図



■ 北方交易の拠点となる秋田城

他の城柵にない大規模な倉庫群が造られた理由には、秋田城の立地や独自の役割が関係しています。

秋田城は最北の城柵として、北方に住む蝦夷との朝貢・饗給(貢ぎ物を持ってやって来た人をもてなすこと)の場としての機能が重視されていたことから、饗給に必要な物資の集積、貯蔵管理のために大規模な倉庫群を必要としたと考えられます。都では手に入りにくい品を北方から得ることができるため、特に大規模に交易を行っていた可能性があります。

また、秋田城は大陸との窓口としての役割も果たし、渤海使との交流も行っていました。

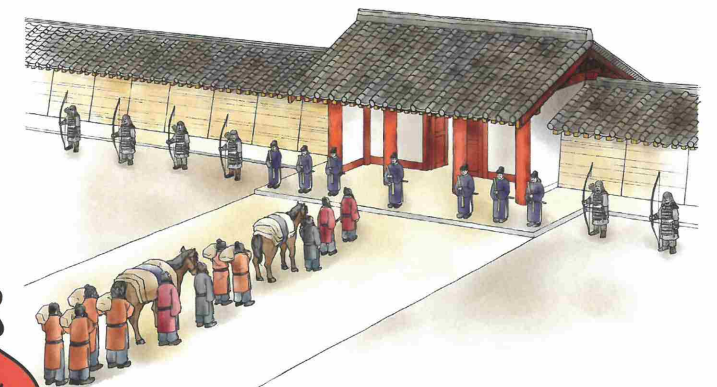
北方の蝦夷、渤海との交流や交易は、秋田城ならではの役割であり、他の城柵に見られない大倉庫群の存在は、まさにそれを反映するものであると考えられます。



「八月廿五日下午狄饗料二條」  
田川 荒木真

■ 第71号木簡狄饗料木簡  
木簡に書かれている「狄」は北方地域に住む蝦夷をさす呼称。「饗料」は蝦夷をもてなすための饗給に使われる食料や物品のこと。秋田城で蝦夷の饗給が行われていたことがわかる。

貴族や国司も蝦夷と私的に交易を行って、どうやら私腹を肥やしていたみたい。9世紀前半には禁止されているよ。



■ 蝦夷が朝貢に訪れた様子